

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.7
平成26年6月26日

感動しました、素晴らしいです！

「感動しました。1年生のこの時期であれほど歌えるんですね」「本当に心を打たれました」と、やや興奮気味に褒めてくださったのは、市内のK楽器店の社長さんと講師の方です。何度も何度も褒めてくださいました。

6月19日（木）、1年生の子どもたちが鍵盤ハーモニカの使い方を講師の方に教えていただいた時のことです。子どもたちは、鍵盤ハーモニカの各部分の名称や注意点を教えてもらった後、実際に音を出す練習もしました。そして、最後に1年生の子どもたち全員でお礼の気持ちを込めて、「Forever」を心をひとつにして歌ったのです。その歌声を聴いてくださった社長さんと講師の方は、職員室に戻られても、感動がさめやらぬ表情で話をしてくださいました。

1年生の子どもたちが、3か月も経っていないこの時期に、心に響く、心を伝える合唱ができたことをととても嬉しく思います。指導をしてくださった1年生の先生と子どもたちに感謝します。

W杯のゴミ拾いから

サッカーのW杯ブラジル大会では、国民の期待とは裏腹に、一勝もできずに予選リーグ敗退が決まりました。この結果には、監督・選手・関係者は言うまでもなく、サポーターや国民の落胆は計り知れないものがあると想像されます。

実は、私も国民の一人として相次ぐ敗戦のニュースにはがっかりしましたし、とても残念に思いました。しかしながら、サポーターの観客席でのゴミ拾いが世界から注目され、称賛を浴びたことは、とてもうれしく、日本人として誇らしく思います。

実は、このゴミ拾いは、初めてワールドカップに出場した1998年フランス大会でも行われていたようです。熱心な応援の後で、チームのシャツと同じ青色のポリ袋にスタンドのゴミを集める日本人サポーターの姿が、驚きと称賛をもって海外メディアに取り上げられたそうです。

日本人の感覚からすれば、特別なことではなく、当たり前のことかも知れません。「来たときよりも美しく」を合い言葉に、小学校から野外教室や修学旅行などでも実践していることです。

こうした礼儀正しさ、公德心を持ち続け、誰かが見ている、見ていなくても実践できるようにしていきたいと思えます。

W杯のような世界中に注目を浴びる大きなイベント後だけでなく、教室・廊下・階段・校庭など、普段の生活の中で、自然にできる子どもに育ってくれたらと願います。誰かが見ている、見ていなくても、自然にできるゴミ拾いこそが本物だと思います。

「ひとつ拾えば、ひとつだけきれいになる」

大切なことは、一歩踏み出す勇気。一歩を踏み出さなければ、前に進むことができません。具体的には、足下のゴミを拾うことから始めるのです。ゴミを拾う人は、不思議とゴミを捨てないものです。

「足下のゴミひとつ拾えぬほどの人間に 何ができましようか」

鍵山秀三郎氏（イエローハット創始者）の言葉を肝に銘じたいものです。